

②再モモ枯死障害を軽減する胴枯病対策技術の確立(H31~33年)

- ②再 1 胴枯病菌の感染を低減する管理技術の確立 (H31~33年)
- ②再 2 胴枯病防除対策の確立 (H31~33年)
- ②再 3 枯死障害の総合対策実証 (H32~33年)

背景・ねらい

近年、県内のモモ産地では、春先にモモの樹が枯れる障害(枯死症)が多くなっているね。しかも、新しく植え替えても枯死する場合があるので問題だよ。



枯死障害樹は、地上部が枯死し、台木は健全な場合が多い

枯死障害が発生しているほとんどの樹は、胴枯病の感染が見られます。



H28~30年の研究結果 枯死障害発生樹は胴枯病菌に感染

- ・主幹部の傷や剪定に起因する樹勢低下
- ・苗木の初期管理不良
- ・多肥による徒長的な生育

助長

枯死障害の発生を軽減するためには、
胴枯病対策が必要

- 3年間の成果を踏まえ、研究内容を枯死障害と胴枯病菌感染の関係に絞り込む。
- 研究内容を再編し、感染防止対策、樹体を健全化する栽培、施肥管理技術の確立に取り組む。

試験内容

- 1 胴枯病菌の感染を低減する管理技術の確立
 - (1)栽培管理
 - ・剪定方法や強度(癒合剤を含む)
 - ・苗木管理
 - (2)凍害・主幹部障害対策
 - ・台木の種類による生育の違い
 - ・主幹部保護
 - (3)施肥技術
 - ・施肥量、施肥時期
 - ・窒素含有量(土壌および樹体)
- 2 胴枯病防除対策の確立
 - (1)感染時期の確認と防除適期の把握
 - (2)各種癒合剤の効果確認
 - (3)有効薬剤の探索と効果の確認
 - ・休眠枝、苗木による薬剤の比較
- 3 枯死障害の総合対策実証



台木試験



胴枯病菌の感染時期
と防除適期



総合対策の実証

期待される効果

○枯死障害の主因である胴枯病菌の感染防止及び感染拡大を軽減する樹体管理技術が確立できる。

○県内モモ産地における枯死障害の発生が軽減し、栽培面積の維持や生産振興が図られる。(県内モモ栽培面積3,430ha)